

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	磐田市福田地区地域水産業再生委員会
代表者	会長 安井洋一

再生委員会の構成員	遠州漁業協同組合、磐田市
オブザーバー	静岡県（静岡県水産技術研究所浜名湖分場）

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	磐田市豊浜地区 漁業の種類 船曳網漁業（シラス） 27 隻（179 人） 一本釣り漁業（トラフグ） 7 隻（ 8 人）
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地区の漁業はシラス漁が中心であり、福田漁港における平成 24 年度の水揚げ量 1,617 トンのうちシラスは 1,600 トン（約 99%）を占めている。漁家経営は、シラスの漁獲量変動や燃油高騰に左右されやすく、シラス漁が休漁となる冬季には収入源となる漁業がないといった課題がある。また、シラス干しは、全国の産地において製造されているが、遠州灘の豊かな漁場で水揚げされる「福田産シラス」の品質をより多くの人に知ってもらうことにより、福田産シラスの知名度向上を図り、単価向上につなげる必要がある。

磐田市では、磐田市総合計画の後期基本計画（平成 24 年度～）を策定し、福田漁港周辺の「食の拠点づくり」に向けた取組を進めている。「食の拠点づくり」とは、福田漁港で水揚げされたシラスをはじめとした地域の特産品を食堂や売店等を通じて多様な形で来訪者に提供することにより、交流人口を増加させ、漁港ににぎわいを創出することを目指すものである。

平成 24 年度には「静岡県磐田市福田地区産地協議会」を組織し、製氷・貯氷施設の整備（製氷機の増設、貯氷槽の嵩上げ）を行っている。また、「食の拠点づくり」の市場化テスト（市事業）において、平成 24 年 10 月に食事処「漁師のどんぶり屋」、平成 25 年 11 月に地域の農産物や水産物を販売するアンテナショップ「ふくっば夢ぷらざ」を福田漁港内に開設した。これらの施設は、現在仮設で、遠州漁業協同組合、福田水産加工組合、福田鮮魚商組合等の有志（漁業者・加工業者等）が、試験的に運営を行っており、市内外から多くの来訪者が訪れ、シラスをはじめとする地元水産物や特産品の販売・提供を行っている。

(2) その他の関連する現状等

福田漁港周辺の沿岸地域では、メロンや米などの農産物の生産も盛んである。また、年間を通じて、釣りやサーフィンなど多くのレジャー客が訪れる地域でもあり、福田漁港に近い国道 150 号線の通行量は、平日 16,000 台/日と多い。これらの来訪者を福田漁港に積極的に誘致することにより、水産業を核とした地域の活性化を図る必要がある。さらに、東日本大震災を踏まえ、津波防災力の強化は地域全体の課題であり、津波避難タワー等を整備することにより、安全で安心な地域づくりを進める必要がある。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

収入向上の柱は、

- ① 平成 24 年度に整備した製氷・貯氷施設を活用し、鮮度保持を十分に行うことにより、シラスの品質向上を図る。(従前は漁期に氷が不足し出漁を控えたり、鮮度保持に必要な最低限の氷の量しか使用できなかったが、製氷・貯氷施設の増設により、十分な氷を使用できる環境が整ったことから、漁獲から出荷までの間、適切な氷の使用による品質向上を図る。)
- ② 現在、漁協関係者などが仮設で運営している「漁師のどんぶり屋」「ふくっば夢ぷらざ」について、常設化に向けた検討・整備に取り組む。(①の鮮度保持とあわせて、シラスを中心とした地元水産物をより多くの来訪者に提供・販売することにより、福田産の鮮魚・加工品の PR・知名度向上を図り、魚価向上を目指す。また、通常の流通(仲買業者によるセリ(入札)制度による買い付け)と比較し、直接取引により漁業者の手取り(所得)向上を目指す。)
- ③ シラス漁の禁漁期である冬期の収入源確保のため、シラス漁業者が漁協と協力しつつ、港内水域を活用したワカメの養殖に向けて取り組む。(現在は 100m ロープ 1 本、年 1 回の収穫であるが、養殖実証試験を行い、ロープ 10 本、年 2 回の収穫に取り組む)

コスト削減の柱は、

- ① 船底清掃による燃油コストの削減を図る。

また、上記とあわせて、南海トラフ等を想定した地震・津波対策として、福田漁港に津波避難タワーの整備を行い、地域の漁業従事者や一般就労者にとって安全で安心な漁村地域づくりに取り組む。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

静岡県海域における遠州漁業協同組合のしらす資源管理計画

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成26年度）

取組内容は、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ必要に応じ見直すこととする。

漁業収入向上のための取組	<p>○新たに整備した製氷施設を活用し、鮮度保持を十分に行うことにより、生シラスでの流通や釜揚げシラス、干しシラスの品質向上を図る。</p> <p>○漁協関係者などが週3日、試験的に運営している「漁師のどんぶり屋」について、市事業（食の拠点づくり事業）を活用し、常設化に向けた検討・設計を行う。</p> <p>また、提供メニューについて、隣接する魚市場で水揚げされた新鮮な生シラスや釜揚げシラスのほか、地元漁業者が漁獲したアジ、カツオなどを活用し、市と協力して観光客の誘致、集客力の強化を図ることにより、現在の年間売上げ2,250万円（1日平均185食）を大きく増加させることを目指す。</p> <p>さらに、鮮度保持に留意した釜揚げシラス等の水産加工品を観光客等に積極的に販売するため、隣接するアンテナショップ「ふくっぱ夢ぷらざ」についても、市と協力して常設化に向けた検討・設計を行う。</p> <p>○シラス漁は毎年1月15日から3月20日まで禁漁期間となっている。漁港施設の有効利用と禁漁期間の収入確保を図るため、シラス漁業者が漁協と協力しつつ、港内水域でわかめ養殖の実証試験を実施する。（平成25年度は100mロープ1本、年1回の収穫であるが、港内水域の適地調査及び過年度に設置した種付けロープの繁茂調査を行ったうえで、ロープ本数及び収穫回数（1回→2回）を増やす）</p> <p>○福田漁港内に津波避難タワー兼風力発電施設（タワー及び周辺施設への電力供給を目的としたもの）を検討・設計し、漁港就労者や一般来訪者の防災安全対策を確保する。</p> <p>以上により漁業収入を基準年の2%向上を目標に取り組む。</p>
漁業コスト削減のための取組	漁船の燃費向上のため船底清掃を実施し、燃油使用量を基準年の10%削減を図る。
活用する支援措置等	省燃油活動推進事業 漁業経営セーフティネット構築事業 磐田市食の拠点づくり事業・施設整備事業 強い水産業づくり交付金（漁港防災対策支援事業）

2年目（平成27年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>○新たに整備した製氷施設を活用し、鮮度保持を十分に行うことにより、生シラスでの流通や釜揚げシラス、干しシラスの品質向上を図る。</p> <p>○「漁師のどんぶり屋」「ふくっぱ夢ぷらざ」を常設化するために必要な施設整備（本工事）を実施する。</p> <p>提供メニューについては、市場化テストによる需要調査や来訪者の嗜好調査などを踏まえ、新鮮な生シラスや釜揚げシラス、地元漁業者が漁獲したアジ、カツオなどを活用し、市と協力して観光客の誘致、集客力の強化を図る。また、鮮度保持に留意した釜揚げシラス等の水産加工品を観光客等に積極的に販売する。</p> <p>以上により、取扱水産物の魚価向上、通常の流通（仲買業者によるセリ（入札）制度による買い付け）と比較し、直接取引による漁業者の手取り（所得）向上を図る。</p> <p>○シラス禁漁期の収入確保と漁港施設の有効利用を図るため、シラス漁業者が漁協と協力しつつ、港内水域でのわかめ養殖の実証試験を実施する。（港内水域の適地調査及び過年度に設置した種付けロープの繁茂調査を行ったうえで、ロープ本数及び収穫回数（1回→2回）を増やす）</p> <p>○福田漁港内に津波避難タワー兼風力発電施設（タワー及び周辺施設への電力供給を目的としたもの）を整備し、漁港就労者や一般来訪者の防災安全対策を確保する。</p> <p>以上により漁業収入を基準年の3%向上を目標に取り組む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>漁船の燃費向上のため船底清掃を実施し、燃油使用量を基準年の10%削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築事業 磐田市食の拠点づくり事業・施設整備事業</p>

3年目（平成28年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>○新たに整備した製氷施設を活用し、鮮度保持を十分に行うことにより、生シラスでの流通や釜揚げシラス、干しシラスの品質向上を図る。</p> <p>○「漁師のどんぶり屋」「ふくっば夢ぷらざ」を常設化し、本格供用を開始する。</p> <p>これらの施設での提供・販売メニューについては、生シラス、釜揚げシラス、地元漁業者が漁獲したアジ、カツオなどを活用するとともに、他地区の事例などを参考に、消費者にとってより魅力的かつ魚価向上につながる商品メニューや水産加工品の開発などに取り組む。また、市と協力して観光客の誘致、積極的なPR等を行う。</p> <p>以上により、取扱水産物の魚価向上、通常の流通（仲買業者によるセリ（入札）制度による買い付け）と比較し、直接取引による漁業者の手取り（所得）向上を図る。</p> <p>○シラス禁漁期の収入確保と漁港施設の有効利用を図るため、シラス漁業者が漁協と協力しつつ、港内水域を活用したわかめ養殖の実証試験を実施する。（港内水域の適地調査及び過年度に設置した種付けロープの繁茂調査を行ったうえで、ロープ本数及び収穫回数（1回→2回）を増やす）</p> <p>○平成27年度に整備した津波避難タワー兼風力発電施設を活用し、津波防災への意識向上と避難対策の周知・徹底を図る。</p> <p>また、津波避難タワーに併設した風力発電施設を活用し、タワー及び周辺施設への電力供給を開始する。</p> <p>以上により漁業収入を基準年の4%向上を目標に取り組む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>漁船の燃費向上のため船底清掃を実施し、燃油使用量を基準年の10%削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築事業</p>

4年目（平成29年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>○新たに整備した製氷施設を活用し、鮮度保持を十分に行うことにより、生シラスでの流通や釜揚げシラス、干しシラスの品質向上を図る。</p> <p>○「漁師のどんぶり屋」「ふくっば夢ぷらざ」を常設運用する。これらの施設での提供・販売メニューについては、生シラス、釜揚げシラス、地元漁業者が漁獲したアジ、カツオなどを活用するとともに、他地区の事例などを参考に、消費者にとってより魅力的かつ魚価向上につながる商品メニューや水産加工品の開発などに取り組む。また、市と協力して観光客の誘致、積極的なPR等を行う。</p> <p>以上により、取扱水産物の魚価向上、通常の流通（仲買業者によるセリ（入札）制度による買い付け）と比較し、直接取引による漁業者の手取り（所得）向上を図る。</p> <p>○シラス禁漁期の収入確保と漁港施設の有効利用を図るため、シラス漁業者が漁協と協力しつつ、港内水域を活用したわかめ養殖の実証試験を実施する。（港内水域の適地調査及び過年度に設置した種付けロープの繁茂調査を行ったうえで、ロープ本数及び収穫回数（1回→2回）を増やす）</p> <p>○平成27年度に整備した津波避難タワー兼風力発電施設を活用し、津波防災への意識向上と避難対策の周知・徹底を図る。また、津波避難タワーに併設した風力発電施設を活用し、タワー及び周辺施設への電力供給を継続する。</p> <p>以上により漁業収入を基準年の5%向上を目標に取り組む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>漁船の燃費向上のため船底清掃を実施し、燃油使用量を基準年の10%削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築事業</p>

5年目（平成30年度）

最終年であり以下の取組を引き続き行うが、目標達成を確実なものとするようプラン取組の成果を検証し必要な見直しを行うこととする。

漁業収入向上のための取組	<p>○新たに整備した製氷施設を活用し、鮮度保持を十分に行うことにより、生シラスでの流通や釜揚げシラス、干しシラスの品質向上を図る。</p> <p>○「漁師のどんぶり屋」「ふくっば夢ぷらざ」を常設運用する。これらの施設での提供・販売メニューについては、生シラス、釜揚げシラス、地元漁業者が漁獲したアジ、カツオなどを活用するとともに、他地区の事例などを参考に、消費者にとってより魅力的かつ魚価向上につながる商品メニューや水産加工品の開発などに取り組む。また、市と協力して観光客の誘致、積極的なPR等を行う。</p> <p>以上により、取扱水産物の魚価向上、通常の流通（仲買業者によるセリ（入札）制度による買い付け）と比較し、直接取引による漁業者の手取り（所得）向上を図る。</p> <p>○シラス禁漁期の収入確保と漁港施設の有効利用を図るため、シラス漁業者が漁協と協力しつつ、港内水域を活用したわかめ養殖の実証試験を実施する。（港内水域の適地調査及び過年度に設置した種付けロープの繁茂調査を行ったうえで、100mロープを10本、年2回収穫を行う。）</p> <p>○平成27年度に整備した津波避難タワー兼風力発電施設を活用し、津波防災への意識向上と避難対策の周知・徹底を図る。また、津波避難タワーに併設した風力発電施設を活用し、タワー及び周辺施設への電力供給を継続する。</p> <p>以上により漁業収入を基準年の6%向上を目標に取り組む。</p>
漁業コスト削減のための取組	漁船の燃費向上のため船底清掃を実施し、燃油使用量を基準年の10%削減を図る。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業

（4）関係機関との連携

取り組みの効果が十分に発現されるよう、行政（静岡県、磐田市）、関係団体（静岡県漁業協同組合連合会）、地域団体（福田水産加工組合、福田鮮魚商組合）との連携を強める。

4 目標

(1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年（平成 年） 漁業所得	シラス漁 トラフグ漁	千円 千円
	目標年（平成 年） 漁業所得	シラス漁 トラフグ漁	千円 千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省燃油活動推進事業	消費燃油量の削減（漁船船底清掃による抵抗軽減）
強い水産業づくり交付金	漁港内に津波避難タワー兼風力発電施設を新設。緊急時に多くの方が避難することができる施設として使用。